年 次 報 告

平成 25 年度（2013 年度）

群馬県立ぐんま天文台

目次

§ぐんま天文台の運営基本方針の変更について

§豪雪による臨時閉館

§活動

1. 生涯学習支援（来館者対応）
2. 生涯学習支援（来館者対応以外）
3. 学校教育支援
4. 研究活動

§資料・統計

A.1. 昼夜別来館者数
A.2. 団体個人別来館者数
A.3. 団体利用内訳
A.4. 個人利用内訳
A.5. 天体観望（一般）開催数
A.6. 観測体験時間利用数
A.7. イベント一覧
A.8. 台外事業参加者数
A.9. 地域団体との連携
A.10. 関連機関との連携
A.11. 論文・集録
A.12. 学会・研究会発表
A.13. 委員等
A.14. 国際交流

§基本情報

B.1. 組織
B.2. 開館日時
B.3. 観覧料
B.4. 施設

ぐんま天文台の運営基本方針の変更について

ぐんま天文台は、設立当初から観測研究と教育普及の機能を併せ持つ施設として、以下に記載した「１」の(1)～(5)を基本方針と定め運営してきたところですが、開設後 14 年が経過し、県民の価値観の多様化や、施設を取り巻く社会・経済情勢も大きく変化してきたことから、設立当初からの基本方針を改正し、以下記載「２」のとおり、天文学の教育普及に重点を置いた事業を実施するとともに、県民に親しまれる天文台を目指して運営することとしました。

1　設立当初の基本方針（平成 9 年 9 月）

(1) 本物の体験　(2) 開かれた利用　(3) 学校や生涯学習との連携
(4) 観測研究　(5) 国際協力

2　今後の運営基本方針（平成 25 年 10 月）

・ 天文台の今後の運営基本目標を『天文学の教育普及に重点を置き、「天文学を通じて学校・地域と協働し、多様な学習機会を提供する教育施設」として、効率的な施設運営と利用者の拡大に努め、県民に親しまれるぐんま天文台として運営する。』と定めました。
・ この運営基本目標達成のための「事業実施方針」を次のとおり定めて事業を実施することにしました。

Ⅰ　本物の体験－本物に触れる・本物を感じる
大型望遠鏡による天体観望や天体観察会をはじめとして、利用者の知的好奇心を刺激する本物の体験を提供する。

Ⅱ　開かれた利用－専門的な内容から初心者まで様々なリクエストに対応する
天文台の施設や観測研究データなどの様々なリソースを、幅広い利用者に対して広く公開する。

Ⅲ　学校・地域との協働－ソフトの開発・充実
学校や地域と幅広く協働し、学校現場や地域に赴いて天文学のすそ野を広げるとともに、利用者の学齢期や学習目的に応じた多様な学習機会を提供する。

3　改正にあたっての視点

・ 運営基本方針の改正にあたっては、次の点に留意しました。

(1) 「本物の体験」は、子どもたちにとって一番重要なことであり、「子どもたちが本物に触れる機会」や「実体験」等の不足が指摘されている中、ますます重要度を増している。

(2) 「開かれた利用」や「学校や生涯学習との連携」については、県立の教育施設として効果的なプログラムの開発を図り、さらに工夫して事業を継続的に行っていく。

(3) 「地域との協働」については、星空や豊かな自然を活かした地域振興や観光面での連携等、地域からの要望も強いことから今後のぐんま天文台にとって重要な視点である。

(4) 「観測研究」については、高度で専門的なものばかりではなく、日食観測ネットワークなど県民が親しみやすい身近な研究課題に取り組み、その成果を天文台から情報発信していく。

(5) 「国際協力」については、理念を実践する財政的裏付けが現在ないことから見直す必要がある。

4　改正に至る経過

・　運営基本方針の改正に至る経過を以下のとおり簡単にまとめました。

(1) ぐんま天文台は平成 11 年の開設以来、観測研究と教育普及の機能を併せ持つ施設として運営してきた。公共施設のあり方検討委員会の中間報告に基づき、世代を問わず、広く県民に親しまれる「教育・学習施設」としての施設運営に大きく舵を切った。さらに運営方針と運営経費の徹底した見直しを行い、平成 21～24 年度の 4 カ年で職員定数及び運営予算をほぼ半減する改革を行ってきた。

(2) 4 カ年計画においては、経費削減のみならず、来館者数とすそ野拡大事業についての実施目標が示され、平成 24 年度入館者数については僅かながら未達であるものの、それ以外の目標を概ねクリアし計画をほぼ達成した。

(3) 4 カ年計画の成果を踏まえ、外部委員による「県立ぐんま天文台のあり方検討委員会」を立ち上げて天文台の今後の運営方針について議論・検討を行い、その提言に基づいて「天文学を通じて学校・地域と協働し、多様な学習機会を提供する教育施設」として運営していくという基本方針を定めた。さらに、この新しい運営基本方針の趣旨に沿って、教育普及の重点化と専門的な観測研究の縮減という観点から、天文台の業務を整理する設置管理条例の改正を行った。

(4) 新しい運営方針を踏まえ、次代を担う子どもたちをはじめ、広く県民に対し、天文に関する学びや感動の機会を提供し、自然に対する探求心や科学への興味、豊かな感性を育むことのできる貴重な施設として、引き続き施設の魅力向上を図る。併せて、県民ニーズを反映した積極的な教育普及事業の展開と効率的な運営、利用者の拡大に努め、県内における天文学のすそ野を拡大していくこととした。

豪雪による臨時閉館

群馬県では、平成 26 年 2 月 14 日(金)から 15 日(土)にかけて記録的な大雪により、県下全域で道路通行の不能や停電、孤立集落、農業用ハウスの倒壊等が多発しました。

天文台では、14 日(金)夜からの降雪により、推定 1 メートルを超える積雪に見舞われ、翌 15 日(土)には停電によるコンピューターサーバー室のエアコン停止が発生、Web ページの遠隔操作による書き換えもできなくなるなど、早期の対応が必要な事態となりました。

しかし、通常は最大で 50 センチメートル程度の積雪しかない地域での想定外の積雪(高山村村政 125 年で初の大雪)となったため、積雪 1 メートルに対応できるロータリー除雪車の配備はなく、道路除雪も、まず 1 車線を確保し、徐々に拡幅していく作業が連日昼夜を問わず繰り返されるなど、地域住民の生活道路の確保のため懸命な作業が行われる状況でした。このため、天文台へのアクセス道路の除雪が遅れることになり、15 日(土)から臨時閉館となりました。

その後、主要道路の除雪が進む中、職員の毎日の状況確認並びに懸命な除雪作業により、ようやく 21 日(金)に天文台までの未除雪路約 1 キロメートルに歩行路を確保するため小型ロータリー除雪機(中之条土木事務所の厚意により貸与)で5時間30分かけて除雪した結果、本館への入館が可能となり、諸設備点検並びに停電復旧をすることができました。観望棟前の高さ 3 メートルの雪の吹きだまりに直面した時には、いつになったら天文台が開館できるのか職員一同が途方に暮れたことが、昨日のことのように思い出されます。この後、職員総出で 22 日(土)から道路と駐車場等の本格的な除雪と併行して本館周辺の除雪を進め、23 日(日)から遊歩道の除雪を進めた結果、3 月 4 日(火)から通常開館ができることになりました。

なお、23 日(日)から 27 日(木)までの 5 日間、除雪ボランティア(通算 7 名)、吾妻県民局除雪応援(通算 20 名：吾妻行政事務所、吾妻県税事務所、吾妻環境森林事務所、吾妻農業事務所、吾妻教育事務所、北毛青少年自然の家)、生涯学習課除雪応援(通算 4 名)の協力により除雪が思いのほか順調に進み、負傷者等の二次災害もなく、早期開館ができたことに深く感謝を申し上げます。

活動

1. 生涯学習支援（来館者対応）

1.1. 昼間

宇宙と天体観測に関する常設展示があり、来館者は太陽の観察もできる。職員が展示室に常駐し解説を行ったほか、ガイドツアー、昼間の星の観察会、３Ｄシアター等の定時イベントを実施した。事前に平日の予約をして来館した団体には担当の職員をつけ、学習を支援した。

参考資料　A.1. 昼夜別来館者数 A.2. 団体個人別来館者数　A.3. 団体利用内訳
A.4. 個人利用内訳

1.2. 夜間

150cm 望遠鏡と 65cm 望遠鏡を用い、専門の職員の解説つきで星や星雲などが見られる「天体観望」を実施した。悪天候で星が見えない場合は映像を使った星空案内等を行った。小型の望遠鏡等を貸し出し、撮影や観察を自由に楽しめる「観測体験時間」も実施した。

参考資料　A.5. 天体観望（一般）開催数　A.6. 観測体験時間利用数

1.3. イベント

観察会や講演会など、宇宙や天文への興味と理解を深めるイベントを多数開催した。

参考資料　A.7. イベント一覧

1.4. ボランティア活動の支援

ぐんま天文台ボランティアとして 43 名が登録され、広場での星座解説、来館者の誘導、自主企画、月例会などを行った。新たに参加したい方のための養成講座も開催した。

2. 生涯学習支援（来館者対応以外）

2.1. 天文台外での講座・観察会等

公民館、ショッピングセンター、科学館等、様々な団体や施設に職員を派遣し、講演や天体観察会などを実施した。

参考資料　A.8. 台外事業参加者数　A.9. 地域団体との連携　A.10. 関連機関との連携

2.3. 情報発信

こども壁新聞「ほしぞら」と広報誌「ステラーライト」を年２回ずつ発行し、学校や来館者等に配布した。上毛新聞に連載記事を毎週掲載した。Ｗｅｂサイトを運営し、天文の情報と施設の案内を掲載した。イベント情報等を東京事務所（ぐんまちゃん家）と県庁記者クラブで報道関係者に提供した。

3. 学校教育支援

3.1. 天文台での学習

幼稚園の遠足から大学の実習まで、さまざまな形での学習を実施した。

参考資料　A.3. 団体利用内訳

3.2. 天文授業サポート

職員を学校等に派遣し、望遠鏡を使った月の観察などの授業支援、学校の望遠鏡の調整、教員の研修などを実施した。

参考資料　A.8. 台外事業

4. 研究活動

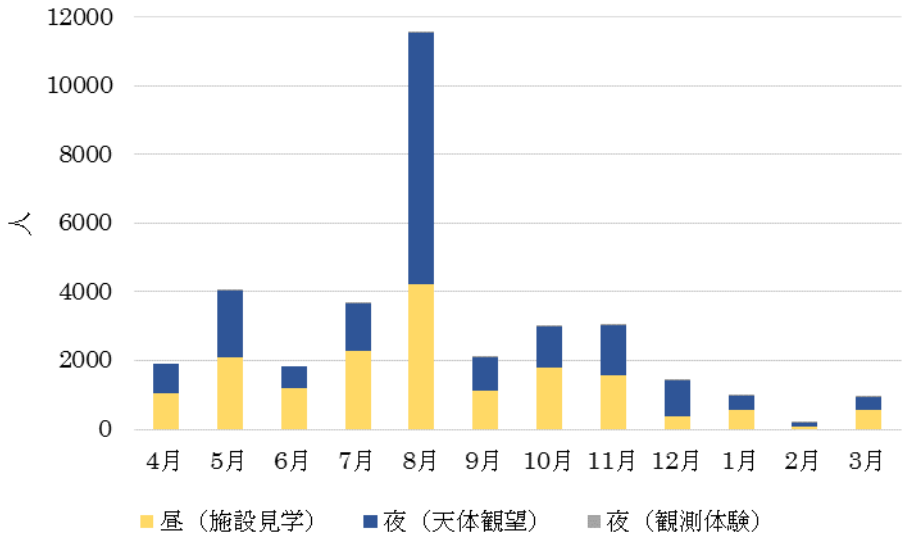
天文学の研究を行い、学術誌に投稿したほか、日本天文学会等で発表を行った。

参考資料　A.11. 論文等　A.12. 学会・研究会発表　A.13. 委員等　A.14. 国際交流

資料・統計

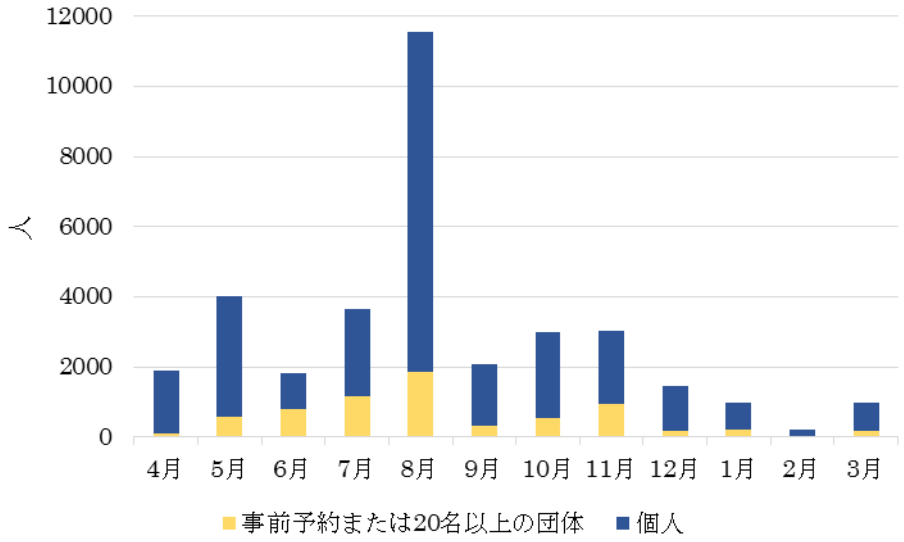
A.1. 昼夜別来館者数

昼（施設見学）16894 人、夜（天体観望）17706 人、夜（観測体験時間）62 人、合計 34662 人が来館した。本年度は晴天に恵まれ（資料 A.5.参照）、夜間の利用が多くなった。



A.2. 団体個人別来館者数

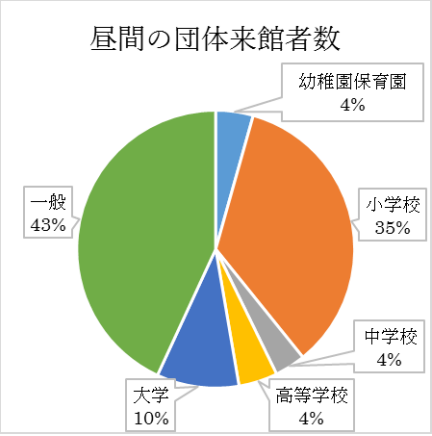
来館者 34662 人の約 2 割にあたる 6787 人が、事前に予約しての利用（観測体験時間→A.6. を除く）または 20 名以上の団体での利用であった。

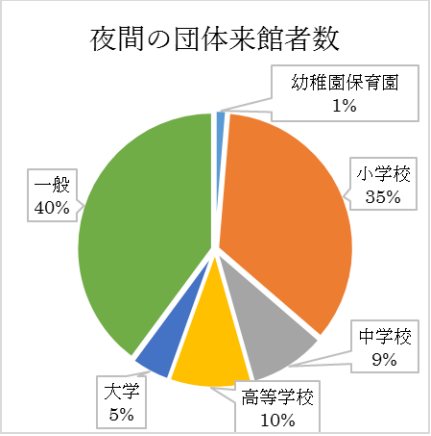


A.3. 団体利用内訳

事前に予約しての利用（観測体験時間を除く）と 20 名以上の団体の合計は、延べ 207 件 6787 人であった。学校が約 6 割、一般が約 4 割であった。

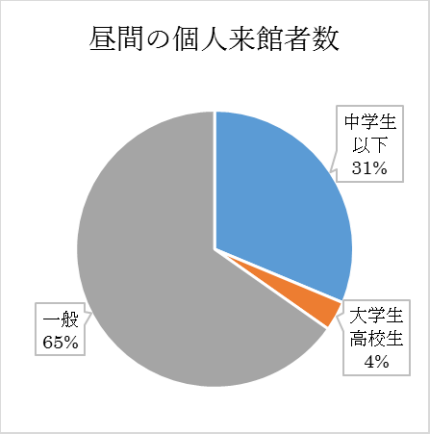
	昼間の利用		夜間の利用	
	団体数	人数	団体数	人数
幼稚園保育園	6	175	1	37
小学校	25	1399	16	977
中学校	6	144	7	259
高等学校	11	182	16	277
大学	22	385	12	130
一般	54	1731	32	1113

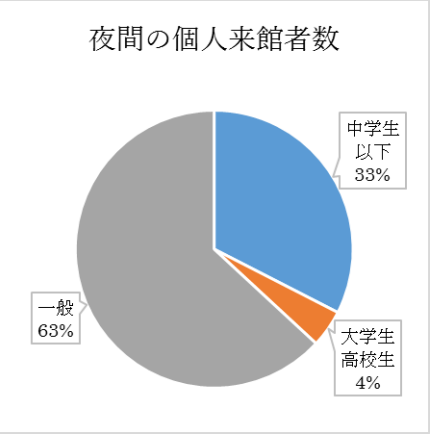




A.4. 個人利用内訳

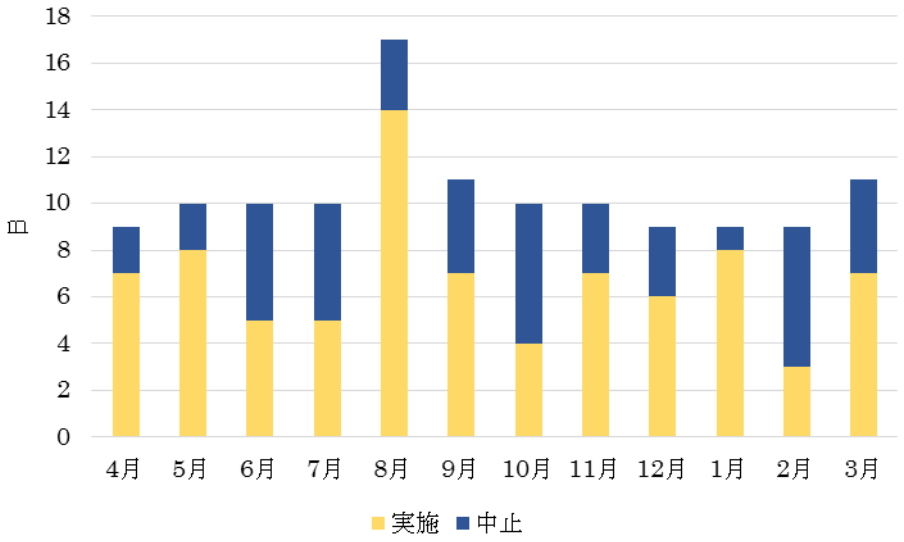
昼夜とも、利用者の 3 分の 2 程度が子連れ家族、3 分の 1 程度が大人のみの利用とみられる。グラフは招待券利用や夜の再入館などを含めずに集計した結果。中学生以下の内訳を過去の調査から推測すると、中学生：小学生：未就学児 ≒ 1 : 6 : 3 と予想される。





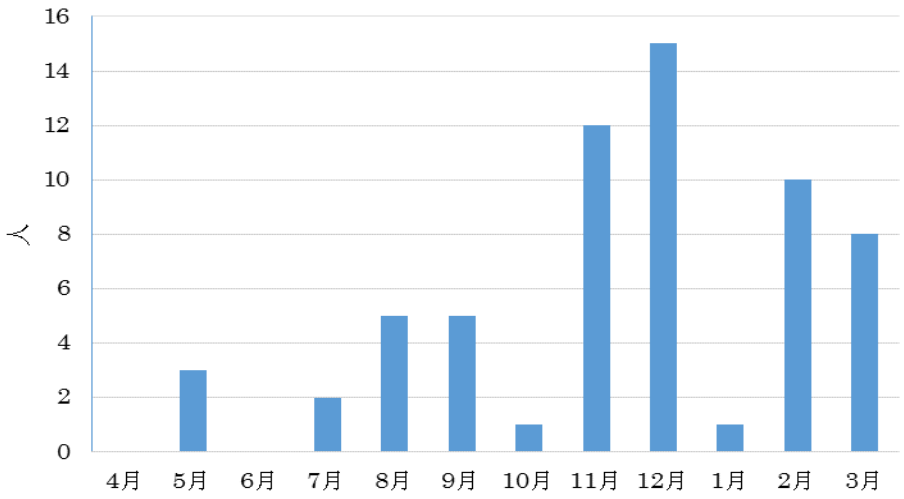
A.5. 天体観望（一般）開催数

週末を中心に「天体観望に予約なしで参加できる日」を 125 日設定し、実際に観望ができたのは 81 日（150cm 望遠鏡は 67 日、65cm 望遠鏡は 77 日。）であった。大型望遠鏡が一部の時間帯だけでも使えれば、悪条件でも「実施」日数に含めた。月別の実施回数は表のとおり。2 月に中止が多いのは、豪雪により 2 月 14 日から 3 月 3 日まで閉館したため。これとは別に、「事前に予約した団体のみが天体観望できる日」も 140 日設定した。



A.6. 観測体験時間利用者数

延べ 62 名が利用した。悪天候によるキャンセルも多数あるが、集計には含めていない。日没が早く機材を長時間使える秋から冬にかけての利用が多い。



A.7. イベント一覧

天文台で開催したイベントの一覧

イベント名	日付	参加者	備考
北斗七星と春の大曲線を見よう	4/13(土)	325	ボランティア自主企画
土星・ふしぎ発見	4/27(土)-4/29(月)	1,102	
土星・ふしぎ発見	5/3(金)-5/6(月)	2,659	
デジカメや携帯で月を撮ろう（1）	5/18(土)	141	ボランティア自主企画
望遠鏡資格取得講習会	6/15(日)	15	
天文講話（1）小惑星の話	6/22(土)	18	
デジカメや携帯で月を撮ろう（2）	6/22(土)	123	ボランティア自主企画
高山幼稚園児による七夕飾り	7/5(木)	28	
七夕観望会	7/7(日)	302	
デジカメや携帯で月を撮ろう（3）	7/20(土)	209	ボランティア自主企画
ぐんま天文台夏祭り 2013	7/27(土)	502	
夏の星空探検	8/10(土)-8/16(金)	6,876	
ペルセウス座流星群説明会＆観察会	8/12(月)	2,443	
デジカメや携帯で月を撮ろう（4）	8/17(土)	597	ボランティア自主企画
天文講話（2）小惑星の運動	9/14(土)	17	
望遠鏡資格取得講習会	9/14(土)	21	ボランティア自主企画
たかやま観月会	9/16(月)	0	ボラン. 悪天候中止
夏の大三角と天の川を見よう	9/28(土)	0	ボラン. 悪天候中止
おもしろ科学教室 in ぐんま天文台	10/5(土)	25	
丸くない金星を観察しよう	10/5(土)-10/6(日)	0	悪天候のため中止
丸くない金星を観察しよう	10/12(土)-10/14(月)	80	
丸くない金星を観察しよう	10/19(土)-10/20(日)	0	悪天候のため中止
天文講話（3）変動の周期	10/26(土)	7	
ますがた星を見よう	10/26(土)	60	ボランティア自主企画
ぐんま天文台秋祭り(県民の日イベント)	10/28(月)	452	
丸くない金星を観察しよう	11/02(土)-11/04(月)	50	
ナイトウォーク in たかやま	11/02(土)	153	
丸くない金星を観察しよう	11/09(土)-11/10(日)	0	悪天候のため中止
デジカメや携帯で月を撮ろう（5）	11/16(土)	330	ボランティア自主企画
丸くない金星を観察しよう	11/16(土)-17(日)	48	
自然史ミニミニ移動博物館隕石編	11/17(日)	105	

親と子の星空の夕べ	11/23(土)	57	
丸くない金星を観察しよう	11/23(土)-24(日)	70	
丸くない金星を観察しよう	12/7(土)-8(日)	13	
ふたご座流星群説明会・観察会	12/13(金)	695	
天文学校 ISON 彗星を観測しよう(1)	12/14(土)	4	
65cm 望遠鏡で細長い金星を観察しよう	12/21(土)-12/23(月)	27	
天文学校 ISON 彗星を観測しよう（2）	1/4(土)	11	
65cm 望遠鏡で昼間の織姫星を見よう	1/11(土)-1/13(月)	102	
月の幻灯会	1/12(日)	108	ボランティア自主企画
天文学校 ISON 彗星を観測しよう（3）	1/19(土)	9	
天文学校 ISON 彗星を観測しよう（4）	2/9(日)	0	悪天候のため中止
子ども天文学校	2/11(土)-3/2(日)全４回	0	申し込み無く中止
カノープスを見よう	2/22(土)	0	積雪のため中止
寒スバルと冬のダイヤモンドを見よう	3/1(土)	0	ボラン. 積雪中止
天文講話（4）小惑星の話(続き)	3/15(土)	18	
65cm 望遠鏡で半月のような金星を見よう	3/21(金)-23(日)	66	

壁面を利用した企画展示

群馬星の会による天体写真展示	7/27(土)-9/23(月)
「宇宙・私の夢」児童絵画展	10/5(土)-11/24(日)

イベントの紹介

「ぐんま天文台夏祭り」

本年度が初となる企画で、望遠鏡メーカー、天文関連ショップ、アマチュア天文団体、地元の団体などを招き、他のイベントではできない体験（望遠鏡の購入相談や各団体との交流等）をする機会を提供した。

「ペルセウス座流星群 説明会＆観察会」

毎年恒例の人気企画。本年度は流星群の極大時刻、月明かりとも好条件となり、天候にも恵まれ多数の流星を観察できた。通常の混雑日とは桁違いの 2443 名が参加。駐車場が満車で来館できなかった方や、渋滞で長時間お待ちいただいた方に大変ご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

「ナイトウォークｉｎたかやま」

地域に愛される天文台を目指し、地元の商工会と連携して開催する企画。平成 19 年より毎年開催し、今回で 7 回目。天文台で星空教室に参加後、星空を眺めながら村内を歩いた。今年は従来のコースに加え、ファミリー向けに距離の短いコースも設定した。

A.8. 台外事業参加者数

地域団体との連携（出前講座・星空観察等）	15 件	2602 人	⇒A.9.参照
関連機関との連携（こども宇宙教室・星空観察等）	27 件	3287 人	⇒A.10.参照
小中学校の授業支援（昼間）	59 件	5786 人	
小中学校の授業支援（夜間）	33 件	3317 人	
高等学校の授業支援（昼間）	3 件	40 人	
教員研修会	8 件	168 人	
学校等の望遠鏡修理と操作指導	16 件	97 人	

A.9. 地域団体との連携

地域団体を訪問し行った事業の一覧。15 件 2602 人が参加。

期日	イベント・会場	参加者数
5 月 19 日	ぐんまふれあいフェスティバル in あがつま	800
6 月 18 日	出前講座(ふじ゛み野市立上福岡公民館)	100
6 月 22 日	星空観察会(はと保育園)	33
6 月 28 日	出前講座(前橋市立白川小学校)	15
7 月 13 日	講演会（赤石学舎）	90
7 月 30 日	スマーク伊勢崎観望会	125
8 月 20 日	スマーク伊勢崎観望会	150
9 月 21 日	丸沼高原・天空の星空鑑賞	200
10 月 12 日	渋川子育てフェスティバル	400
10 月 19 日	高崎駅ビル「星空観察会」	82
11 月 14 日	たけのこ保育園	33
11 月 19 日	スマーク伊勢崎観望会	150
11 月 22 日	スマーク伊勢崎観望会	260
2 月 7 日	みかぼみらい館観望会	89

A.10. 関連機関との連携

関連機関を訪問し行った事業の一覧。27 件、3287 人が参加。

期日	イベント・会場	参加者数
＜こども宇宙教室＞		
7 月 13 日	利根沼田文化会館	31
7 月 28 日	県生涯学習センター少年科学館	91
8 月 24 日	東吾妻コンベンションセンター	12
10 月 26 日	ぐんまこどもの国児童会館	50
2 月 1 日	利根沼田文化会館	35
＜自然史博物館との連携＞		
12 月 7 日	自然史博物館観望会	28
1 月 11 日	〃	28
＜北毛青年の家との連携＞		
11 月 23 日	親と子の星空の夕べ	57
＜高山村との連携＞		
8 月 14 日	高山まつり	150
8 月 31 日-9 月 1 日	高原の味覚と星空へのご招待～ぐんま天文台と高山村～	1,250
9 月 19 日	「月のお話」高山幼稚園	85
3 月 16 日	高山村生涯学習社会福祉推進大会	300
＜各市との連携－公民館主催事業等＞		
7 月 31 日	日時計を作ろう（向井千秋記念子ども科学館）	32
＜県庁各所属との連携＞		
12 月 7 日	群馬の森・星空観察会	48
2 月 13 日	群馬県小児医療センター天体観察会	35
＜放送大学での輪講（Galaxies in the Universe）＞		
4 月 7 日	放送大学群馬学習センター	11
5 月 12 日	〃	16
7 月 7 日	〃	15
9 月 1 日	〃	10
10 月 5 日	〃	11
12 月 1 日	〃	12
1 月 12 日	〃	11
3 月 8 日	〃	17
＜その他＞		
6 月 15 日	彗星会議(福島)	68
9 月 7 日	国際幼児教育学会記念講演	60
9 月 28 日	ユニバーサルデザイン天文教育研究会	124
1 月 18 日	NEXCO 東日本・上里 SA イベント参加	700

A.11. 論文・集録

・査読付学術誌

- K. Sadakane, E. Kambe, **O. Hashimoto**, S. Honda, B. Sato
  "Disk origin narrow metallic absorption lines observed during the 2009-2011 eclipse of ε Aur"
  2013, Publ. Astron. Soc. Japan 65, L1-L4
- Y. Moritani, D. Nogami, A. T. Okazaki, A. Imada, E. Kambe, S. Honda, **O. Hashimoto**, S. Mizoguchi, Y. Kanda, K. Sadakane, K. Ichikawa
  "Precessing warped Be disk triggering the giant outbursts in 2009 and 2011 in A 0535+262/V725 Tau"
  2013, Pubul. Astron. Scc. Japan 65, 83 (23p.)

・研究会収録、査読のない論文

- E. Kambe, K. Sadakane, O. Hashimoto, S. Honda, B. Sato
  "Line-profile variations of the primary of the Epsilon Aurigae eclipsing binary system"
  2013, ASP Conference Series 479, 203

A.12. 学会・研究会発表

・日本天文学会

- 長谷川隆，中西裕之，冨田晃彦
  「M 51のHST測光データによる銀河考古学 ～offset法revisited～」
  日本天文学会2013年秋季年会（2013年9月）
- 橋本修，中島透，武山芸英
  「観望用直視分光アイピースの開発」
  日本天文学会2014年春季年会（2014年3月）
- 関口和寛，ほか（橋本修）
  「V339 Del = Nova Delphini 2013の光赤外線大学間連携ToO観測」
  日本天文学会2014年春季年会（2014年3月）
- 長谷川隆，中西裕之，冨田晃彦
  「M 51 のHST測光データによる銀河考古学～offset 法revisited～ II.」
  日本天文学会2014年春季年会（2014年3月）

・研究会等

- 橋本修，本田敏志，衣笠健三，高橋英則，田口光
  「ぐんま天文台 150cm 望遠鏡を用いた変光星の観測」
  連星系東京研究会（2013 年 5 月）
- 秋山昌俊ほか（橋本修）
  「II Peg の多波長同時観測」
  連星系東京研究会（2013 年 5 月）

- T. Hasegawa, H. Nakanishi, A. Tomita
  "HST/ACS photometry of M51 disk: Measurement of pattern speed"
  'Deconstructing Galaxies: Structure and Morphology in the Era of Large Surveys'
  ESO, Chile (2013 年 11 月)
- 橋本修
  「ぐんま天文台 150cm 望遠鏡による連携観測への参加」
  第 4 回 大学間連携ワークショップ（2013 年 12 月）
- T. Hasegawa, H. Nakanishi, A. Tomita, J. Baba
  "HST/ACS photometry of M51 disc: pattern speed measurements"
  'The Impact of Galactic Structure on Star Formation', 北海道大学（2014 年 2 月）

A.13. 委員等

・橋本修
- 国立群馬工業高等専門学校 非常勤講師（宇宙科学）
- 光学赤外線天文連絡会 「2020 年代の光赤外線天文学」検討書 編集委員
  (恒星物理・超新星・晩期型星 部門長)

・濵根寿彦
- 日本公開天文台協会理事（～7 月）
- 彗星会議運営委員

A.14. 国際交流

・訪問
- 2013 年 5 月 30 日 - 2013 年 6 月 2 日
  古在由秀, 橋本修
  タイ国立天文学研究所(NARIT), タイ国立天文台(TNO)
  NARIT/TNO2.4m 望遠鏡 調査（ NARIT による招聘 ）

・来訪
- 2014 年 2 月 25 日
  タイ王立ソンクラ大学 学長 Sunthorn Sotthibandhu 他 4 名
  大型望遠鏡とぐんま天文台施設を用いた研究・教育普及活動の調査
- 2014 年 3 月 25 日 - 2014 年 3 月 26 日
  タイ国立天文学研究所(NARIT)副所長 Saran Poshyachindac 他, NARIT 所員 8 名,
  中高等学校教員 6 名, 高等学校生徒 7 名 他（総勢 24 名）
  大型望遠鏡, ぐんま天文台における研究・教育活動の調査, 高校生による観測実習

基本情報

B.1. 組織

ぐんま天文台は群馬県教育委員会に属する施設である。

台長──┬──総務係
　　└──観測普及研究係

名誉台長		古在 由秀
台長		五十嵐 章人
総務係	係長(総括)	都筑 周滋
	主幹	飯塚 昌志
	嘱託	高橋 栄
	嘱託	田村 千鶴
観測普及研究係	補佐(総括)	中島 透
	指導主事(総括)	新井 寿
	指導主事(総括)	倉林 勉
	主幹(観測普及研究員)	橋本 修
	主幹(観測普及研究員)	濵根 寿彦
	主幹(観測普及研究員)	長谷川 隆
	副主幹(観測普及研究員)	大林 均
	嘱託	小林 裕司

B.2. 開館日時

	土曜・日曜・祝日・その他特に定める日	水曜・木曜・金曜	火曜	月曜 ※
昼間	施設見学			閉館
夜間	天体観望	天体観望(予約団体のみ)	閉館	

※月曜が祝日の場合は次の平日に休館。
年間年始は閉館。平成 25 年度は 12 月 24 日～1 月 3 日。

	3 月～10 月	11 月～3 月
昼間の施設見学	午前 10 時～午後 5 時	午後 7 時～午後 10 時
夜間の天体観望	午前 10 時～午後 4 時	午後 6 時～午後 9 時

B.3. 観覧料

大人 300 円、大学生・高校生 200 円、中学生以下は無料。
有料入館者 20 名以上で 2 割引。
障害をお持ちの方と介助者 1 名は無料。
学校教育等で利用する場合、申請により観覧料を減免。
観測体験時間での利用には下記の観測機器利用料が別途必要。（天体観望では不要。）
65cm 望遠鏡 2000 円， 観察用望遠鏡 500 円， 望遠鏡スペース 200 円
（観測機器利用料は消費税率引き上げに伴い平成 26 年 4 月より一部改訂あり）

B.4. 施設

・名称　群馬県立ぐんま天文台
・設置日　平成 11 年 4 月 1 日
・所在地　群馬県吾妻郡高山村中山 6860－86
北緯 36° 35' 47"，東経 138° 58' 22"，標高 885m
・敷地面積　69,625 ㎡
・建物面積　3,346 ㎡
・観測装置　150cm 反射望遠鏡
高分散分光器，赤外線観測装置，可視撮像カメラ，低分散分光撮像装置
65cm 反射望遠鏡
可視撮像カメラ，小型低分散分光器，光電測光装置，低中分散分光器
太陽望遠鏡
観察用望遠鏡
移動式望遠鏡
・展示設備　展示室，映像ホール，屋外モニュメント
・その他　計算機システム，図書，工作機器，実験機器等